



園芸作物栽培に関する

これからの対策
と
Q&A

6月は夏野菜の生育が最も進む時期です。忙しい時期ですが早めの手入れを行ってください。また、梅雨の時期ですので以下の対策が大切です。

・排水対策

野菜の根は水に浸かった状態で半日あると機能が著しく低下します。1日経過すると機能は失われ、以降の生育が遅れるか枯れます。梅雨に備えて排水溝の掘り直しを行ってください。この畑の排水

は良い」とよく聞きますが、大半の方は雨の降っている時の畑の状態を見ることが無いと思います。湿水状況等を把握しておく事も大切です。

・防除

梅雨時期は病気の発生しやすい時期です。蔓延すると根絶するのは難しいので「ニール1000」や「ホルダー」シマンダイセン水和剤等の予防剤を散布しておきましょう。

・泥跳ね上げ防止

泥の跳ね上げから野菜を守るため、マルチをしていない場合は敷きワラをしてください。

カボチャやスイカ等のつる性果菜類は土からの湿気が原因で病気になるります。敷きワラをする事で空気層ができて健全に生育します。



排水不良の畑

○ジャガイモ・玉ねぎの収穫について

ジャガイモですが、晴天が続く土が乾くの見計らって収穫しますが、米袋や肥料袋に入れて動かすと擦れあつて傷がつきやすく、腐敗の原因となりますので「コンテナ」かダンボールを使用しましょう。

玉ねぎは腐敗以外に黒かびの発生も問題となっております。いずれも傷ついた部分から病原菌が侵入するので注意が必要です。晴天が続くなら2日ほど畝の上に覆かして収納すると良いです。乾燥する際は、葉や茎から水分が抜けるので切り落とさず、縛って吊り下げてください。黒かびは高温多湿状態で蔓延するので、風通しの良い所で保管しましょう。

○野菜を栽培するうえで、「苗づくり」「土づくり」「水やり」「整枝」「病害虫防除」といった色々な問題があります。最初の1~2年は簡単な野菜を育て、基本的な事に慣れていき、徐々に難易度の高い野菜に挑戦してみましょう。

野菜栽培の難易度

栽培の難易	栽培しやすい ← → 栽培が難しい		
	比較的優しいもの	やや難しいもの	難しいもの
根菜類	サツマイモ、小カブ、ジャガイモ等	ニンジン、大根等	
果菜類	さやいんげん、オクラ、ソラマメ、エンドウ等	ナス、唐辛子、きゅうり、トウモロコシ、ミニトマト等	トマト、スイカ、メロン等
葉菜類	ネギ、シソ、リーフレタス、小松菜、玉ねぎ等	レタス、キャベツ、ミツバ、白ネギ等	ハウレンソウ、セロリ等

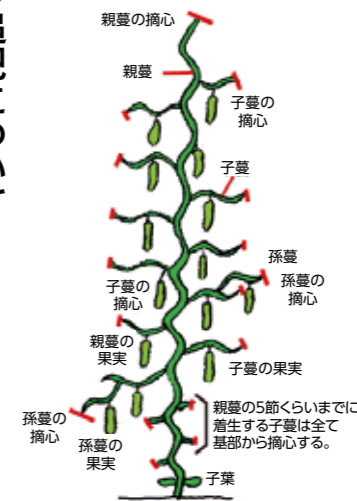
○同じ品種、同じ科に属している作物を同じ場所で連続して栽培すると土壌病害虫が発生しやすくなったり、土壌栄養分のアンバランスで野菜の育ちが悪くなったりする「連作障害」を起こします。連作障害を起こしやすい作物を栽培する場合は作物をローテーションしながら畑を利用していきます。

連作休閑期間の目安

科	連作	強い ← → 弱い				
		出にくい	1年休	2年休	3~4年休	5年以上休
アオイ科			オクラ			
アカザ科			ハウレンソウ			
アブラナ科	大根	カブ	キャベツ ブロッコリー	カリフラワー 白菜		
イネ科	スイートコーン					
ウリ科	カボチャ			きゅうり メロン	スイカ	
キク科	春菊		レタス	ゴボウ		
サトイモ科				里芋		
ショウガ科			ショウガ			
セリ科	人参		セロリ、ミツバ パセリ			
ナス科				ナス、トマト ピーマン ジャガイモ		
バラ科			イチゴ			
ヒルガオ科	サツマイモ					
マメ科		インゲンマメ		ソラマメ 枝豆	エンドウマメ	
ユリ科	玉ねぎ ニンニク	ネギ	ニラ			

○きゅうりの整枝について

きゅうりは、下の方から発生した脇芽が勢いよく伸び過繁茂の原因になりますので、下から5節目までの脇芽はすべて取り去ります。6節目以降は脇芽の本葉1~2枚を残し、その先を摘芯すると安定した収穫ができ、草姿がすっきりする事で風通しが良くなり病害虫の発生も抑えられます。



○果菜類の追肥について

トマト、ナス、きゅうり等の栽培期間が長く、収穫が長い野菜は果実が肥大し始めてきたら追肥を始めます。そのさい3号等の速効性肥料を1株当たり指4本でつまめる程度の量を用に3~4回施用してください。散布する場所は株元ではなく、30cmほど離れた位置に施用してください。

◎よくある質問

○スイカの実が着かない

スイカ、カボチャ、ウリ等は、基肥や追肥の量が多すぎると実がなりにくくなります。施肥量を守ってください。また、親ヅルの摘芯がされていないケースも多いです。スイカやカボチャは子ヅルに、ウリは孫ヅルに着果しやすいので親ヅルの本葉4~6枚を残して摘芯をしてください。

○カボチャの葉が黄色の虫に食害される

ウリハムシです。山沿いでは特に飛来が多く見られます。成虫は葉をかじりますし、幼虫は土中で根を食い荒らしますので早い段階でマラソン乳剤等で防除をしてください。



ウリハムシの成虫7~8mm程度

お問合せ先 東部ふれあいセンター内
営農生活課 担当:高橋
TEL.0778-51-8004

バックナンバーはJAたんなんホームページ
<http://ja.tannan.com/> 広報誌をご覧ください。